

# 食育に関して保育園と家庭との連携構築をめざす調査研究（1）

## － 2歳児を中心に－

Research on Cooperation between Nursery Schools and Families Concerning Dietary Education (1)  
- The Case of Two-Year-Old Children -

梶 美 保  
Miho Kaji  
豊 田 和 子  
Kazuko Toyoda

### （要約）

近年、生活スタイルや食文化の変化に伴って、乳幼児期からの健全な食生活の乱れが顕著になってきている。子どもが豊かな人間性を育み、健やかに育つためには健全な食生活を取り戻すことが重要である。そこで、本研究では、乳幼児期の食生活改善の具体的な課題を探求する目的で、保育園に通う2歳児と5歳児を抽出して、14園の保育士と園児の保護者を対象に食生活に関する実態調査を実施した。本稿では、保護者と保育士から回答を得た2歳児の調査結果にみられる両者の食育意識について分析し、食育改善のために園と家庭が連携を進める上での課題について考察した。

### （キーワード）

食育 保育園と家庭との連携 2歳児

## I. 問題意識

近年の生活スタイルの変化は、食領域にも大きな影響を及ぼしている。季節を問わず世界中の食べ物が手に入るようになり食は豊かになりつつある。また、調理器具の開発により料理も便利になった。そして何よりファストフードの開発やコンビニエンスストアの発展によりあらゆる食事が簡単に入手できるようになった。その反面、大きなマイナスの影響を及ぼしていることも事実である。

子どもたちは季節感のある食材を味わっているのだろうか。伝統的な家庭料理の味を小さいときから十分に体験しているのだろうか。食への感謝の気持ちを育んでいるのだろうか。大人中心の生活スタイルによって、定まった食事の時間や家族そろって食べるという食の文化空間はどうなっているのだろうか、といったいろいろと疑問を抱かざるを得ない現状である。食事は生まれた時からの重要な原体験であり、食事時間の定着は子どもの健全な成長に欠かせない育児課題である。食領域・食文化の様々な面での崩壊が進んでいることに危惧の念を抱く。乳幼児期からの健全な食生活を取り戻すこと、この課題に子どもを育てている大人は敏感でなければならない。

筆者たちは、2006年度に乳幼児期の食生活改善の具体的な課題を探求する目的で、14保育園に通う2歳児と5歳児を抽出して、担当保育士と園児の保護者を対象に食生活に関する実態調査を実施した。その調査結果からは、多くの乳幼児が家族と一緒に食事を摂っていること、テレビを視聴しながらの摂食が多いこと、偏食や少食、野菜嫌いなどの実態が浮上した。調査研究の成果の一部は、すでに2007年5

月の日本保育学会第60回大会、同年9月の東海学校保健学会において報告し<sup>1,2</sup>、乳幼児期からの食育の課題解決には、子どもが食事に集中できる雰囲気作りや食材への関心を深めることの必要性を指摘した。

したがって本稿ではそれらの継続研究として、特に2歳児を中心に取り上げて、保護者と担当保育士から得た調査回答の記述部分を中心に分析し、食育改善のために園と家庭が連携を構築していく上での課題について考察する（この部分は未発表の内容である）。

## II. 食育政策の概要

### 1. 国の食育政策

国民の食生活の危機的な状況に危惧を抱いた国は2005年7月に「食育基本法」を施行した。その目的は、国民の生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性を育むことができるよう、食育を総合的かつ改革的に推進すること<sup>3</sup>である。そもそも食育とは何か。食育基本法によれば、①生きるうえでの基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきもの、②食に関する知識と、食を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること、だと解説している<sup>4</sup>。つまり、食育は、生きる力の基礎と食に関する知識と実践力の総体を育成することなのである。続いて2006年3月に食育推進会議で決定された「食育推進基本計画」を見ると、特に子どもに関する部分では、保護者と教育関係者の役割を強調して、「子どもの保護者と教育・保育関係者の意識向上を図り、子どもが楽しく食を学ぶ取組が積極的に推進されるよう施策を講じる」ことを強調している<sup>5</sup>。そして第3の2で「学校、保育所等における食育の推進」の条項を挙げている。そこでは、「生活リズムの向上」や「指導体制の充実」などを具体的課題と示している。

この食育基本法や基本計画に先駆けて、保育所関係では、2004年3月に、発達過程に応じた食育のねらいや留意事項を整理した「保育所における食育に関する指針」を作成し、保育所における食育の一層の取組を推進してきた。保育所は乳幼児が一日の大半を過ごす場所であり、保育所における食事の意味は大きいことからである。この指針を通達した厚生労働省児童家庭局は「食事は（中略）、人間関係の信頼関係の基礎を作る営みでもあり、豊かな食体験を通じて、食を営む力の基礎を培う『食育』を実践していくことが重要である」<sup>6</sup>と述べ、〈楽しく食べる子どもに〉というタイトルをつけている。第1章総則の部分で、(1)食育の目標として、『保育所保育指針』の目標と関連して次の5点を掲げている。①お腹がすくリズムのもてる子ども、②食べたいもの、好きなものが増える子ども、③一緒に食べたい人がいる子ども、④食事作り、準備にかかわる子ども、⑤食べ物を話題にする子ども、である<sup>7</sup>。本稿でも、そういった目標を着眼点として調査研究を進めた。

### 2. 三重県における食育運動

三重県ではすでに2001年3月に健康づくり総合計画「ヘルシーピープルみえ」を策定し、その重点領域の一つとして「栄養・食生活」を設置しており、市民団体や市町と協働して普及啓発や食生活改善等を進めてきた。その一具体施策として、家庭における食育推進を掲げて家庭を食に対する関心を高め、健全な食習慣を確立するための場として位置づけ、子どもから高齢者までのすべての世代で実践できるように進めてきた。これを受けて特に学校や保育所等では、朝食の喫食を重視し、「三重すこやか食生

## 食育に関して保育園と家庭との連携構築をめざす調査研究（1）

活指針」の啓発を行い家庭と施設との両方から、食生活改善を推し進めてきた。このような流れの中で、筆者たちが研究対象としているA市の14保育園でも乳幼児の食生活改善の運動を数年間実践的に推進しているのである。

その後、前述したように国の制定した「食育基本法」を受けて、2006年3月に当時の内閣総理大臣を会長とする食育推進会議は、2006年から2010年までの5年間をかけて国民運動として食育に取り組むための食育推進基本計画を発表した。この動向に沿って三重県も、2007年3月に「三重県食育推進計画」を策定した。三重県のめざす食育とは何か。「食べることの楽しさや喜びを知ることにより健全な精神を育むこと」<sup>8</sup> だとうたい、その具体的施策の中に「保育所等での食育推進」が掲げられている。そのポイントは、「食事の取り方や食材との触れ合い」「保育所と家庭との連携・協力」であり、2004年に公表された先述の「保育所における食育に関する指針を参考に保育計画に食育を盛り込む」<sup>9</sup> ことを強調している。

筆者たちが今回調査研究を実施した園でも、この路線に沿った形で保育園における食育を実践しており、その成果は調査結果にもある程度反映されていると推測できる。

以上が、国の食育政策と三重県の食育推進の動向である。

### Ⅲ. 研究方法および結果

#### 1. 研究方法

##### (1) 調査期間・調査対象

2006年10月10日～10月16日の期間に、A市私立14保育園で、2歳児の保護者228名と担当保育士55名、を対象に無記名質問紙法によるアンケート調査を実施した

##### (2) 調査内容・調査手順

保護者対象の調査内容は、家庭における食実態、食についての意識、食について気になること等、保育士対象の内容は、園における食状況と食援助の状況等とした（【資料1】参照）。調査実施に際して、全保育園に調査目的を説明し、保育士を通じて保護者への調査説明と同意確認を行い、質問紙の配布と回収を依頼した。

#### 2. 調査結果

回収率は、保護者95%（217名）、担当保育士96%（53名）、であった。本稿では、保護者・保育士の自由記述部分に焦点を当てて分析する。回答はKJ法を用い、1人で複数の内容の項目を記述している場合は、別々に分けた上で、共通する内容ごとにいくつかのカテゴリに分類した。

##### (1) (1)保護者と保育士の属性および選択項目の調査結果の概要

1) 保護者の属性および選択項目（問1～14）の調査結果の概要（以下本文中の（ ）の数字は実数を表す）

子どもの年齢（月齢）は、調査時期が10月であったことから大半の子どもが2歳後半から3歳半の年齢であった（【図1】参照）。家族数は4人家族が最も多かった（【図2】参照）。

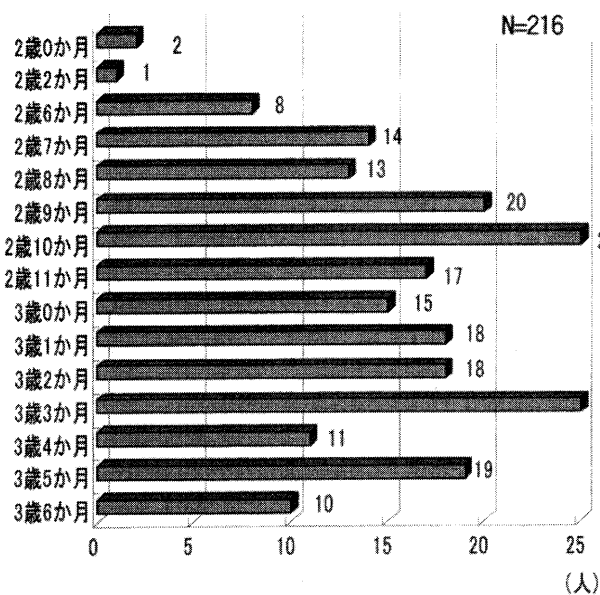
## 【資料1】 調査内容 下線部、自由記述の部分が本稿の分析項目である。

## 2歳児保護者対象の質問項目

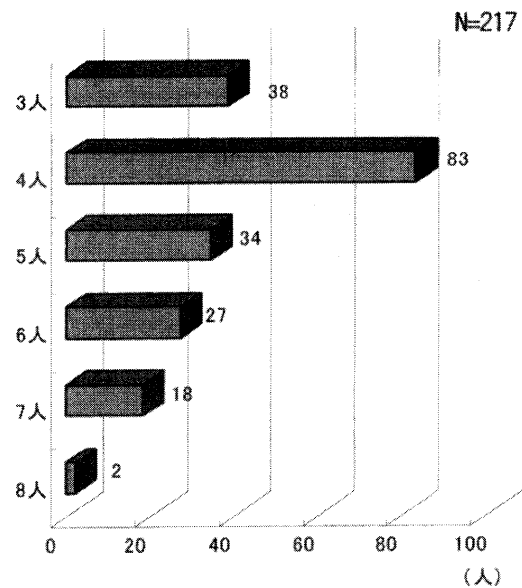
属性：子どもの年齢・家族数
問1. 食事の摂りかた
問2. 自分で食べていますか
問3. テレビを見ながら食事をしてますか
問4. 通常どのようにして食べていますか
問5. 「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶をしていますか
問6. 食具（スプーン、箸、茶碗等）の扱い方について
問7. 朝食は食べていますか
問8. 食事時間について
問9. お子さんの食についてどう思っていますか
問10. 調理方法について
問11. よく利用する加工食品を教えてください
問12. お子さんの好きなメニューと食材・苦手なメニューと食材3つずつ教えてください
問13. 間食について
問14. 外食の回数について
問15. お子さんの食事で気になることがあればお書き下さい
問16. その他、食について保育園へ要望などあればお書き下さい

## 2歳児保育士対象の質問項目

属性：経験年数および低年齢児の経験年数
問1. 食べ物の好き嫌いについて気になる場所がありますか
問2. 自分で食べていますか
問3. 箸の使用について
問4. 食具（スプーン・箸・茶碗等）の扱い方の指導について
問5. 食事の時の挨拶のしかたについて
問6. 食援助をしていて気になることがありますか
問7. 子どもの好きなメニューと食材・苦手なメニューと食材を3つずつ教えてください
問8. 食事について保護者との連携で配慮していることを具体的に書いてください
問9. 食事について保護者との連携で困っていると感じていることを具体的に書いてください



【図1】 調査時の子どもの年齢



【図2】 家族数

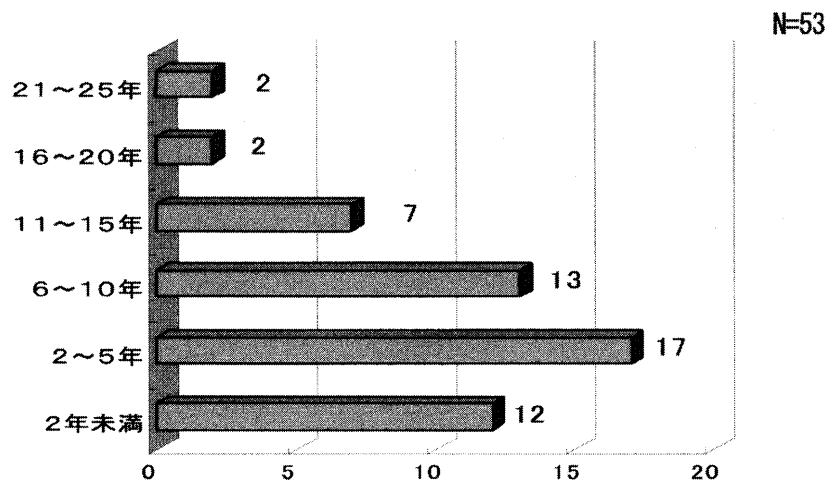
94%が「家族と一緒に」に食事を摂り（問1）、60.4%が「だいたい1人で」食べ（問2）、64.5%がテレビを「いつも見る」「見ていることが多い」（問3）、「スプーンやフォークを使用」と「箸を使用」それぞれ半々の回答であった（問4）。食事の挨拶は「している」が71.0%であり（問5）、87.5%が家庭で食具の扱い方を「教えている」「ときどき教えている」（問6）状況であり、朝食は、92.6%が「食べている」「だいたい食べている」であり（問7）、その時刻は「7：30～8：00」（61）、「8：00～8：30」（59）、「7：00～7：30」（51）の時間帯が多く、夕食は「19：00～19：30」（66）、「18：30～19：00」（53）の時間帯が多かった（問8）。子どもの食については、54.8%が「よく食べ」（問9）、調理方法は、「手作りが多い」が56.3%、「手作りと加工食品の組み合わせ」が41.8%であった（問10）。よ

## 食育に関して保育園と家庭との連携構築をめざす調査研究（1）

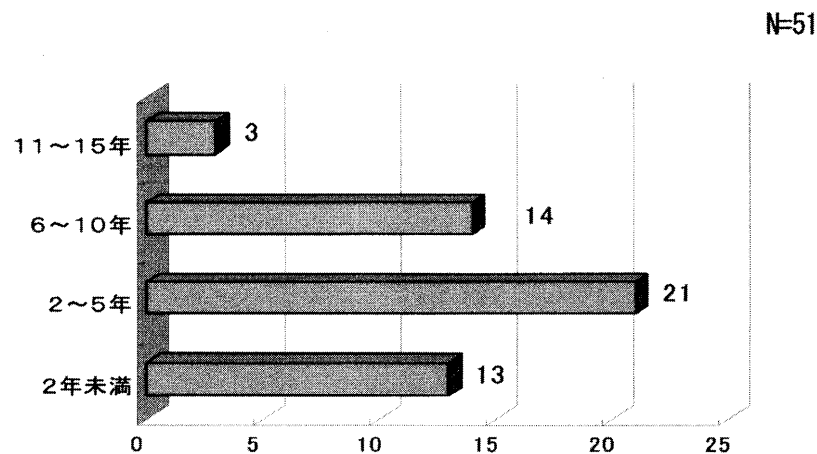
く利用する加工食品上位3つは「冷凍食品」「コロッケ」「ウインナー」であった（問11）子どもの好きなメニューと食材3つは、「カレーライス」「ハンバーグ」「カボチャの煮物」と「魚」「肉」「納豆」で、「苦手なメニューと食材3つ」では、「野菜炒め」「酢の物」「野菜サラダ」と「ピーマン」「トマト」「肉」であった（問12）。間食は、61.1%が「ほしい時に与え」ておりその49.3%が「スナック菓子」「ジュース」であった（問13）。外食の回数では、「月に2～3回」が40.8%と最も多かった（問14）。

## 2) 保育士の属性および選択項目（問1～7）の調査結果の概要

保育士としての経験年数は、「2～5年」が17（32.0%）と最も多く、次いで「6～10年」が13（24.5%）、2年未満が12（22.6%）となっている（【図3】参照）。平均経験年数は6.6年である。そのうち低年齢児保育（0・1・2歳児保育）の経験年数は、2～5年が21（41.2%）と最も多く、次いで「6～10年」が14（27.5%）、2年未満が13（25.5%）となっている（【図4】参照）。低年齢児保育の平均経験年数は4.5年であった。



【図3】保育士としての経験年数



【図4】低年齢児の経験年数

食べ物の好き嫌いについては、76.9%が「気になる」と回答し、「はい」と回答した内容は、「野菜が苦手」(16)、「食べず嫌い」(16)、「固いものが苦手」(6)等39名、47の記述があった(問1)。食事の自立度では、「だいたい一人で食べている」が64.1%で最も多く、次いで「場合によって食べさせている」が26.4%であった(問2)。箸の使用については、「箸とスプーン両方」が41.5%で最も多く、「大半が箸を使える」「箸を使える子は少ない」同数でそれぞれ26.4%(14)であった(問3)。「食具の扱い方」では、「特に問題はない」が52.8%、「問題であると感じている」が45.3%であった。問題と感じている内容として、「箸・スプーンの持ち方」(18)、「茶碗やお皿を持たない・左手を添えない」(7)、「遊び食べ」(5)等24名、31の記述があり、「スプーンを下から握るよう」「箸の持ち方が逆手にならないよう」「茶碗、お皿は左手を添えて持つよう」など具体的な記述がみられた(問4)。食事の時の挨拶は83.0%が「多くの子が気持ちよく挨拶をしている」であった(問5)。食援助をしていて気になることでは70.5%が「気になる」と回答している(問6)。好きなメニューと食材3つでは、「カレー」「うどん」「煮魚」と「魚」「肉」「うどん」であり、苦手なメニューと食材3つでは、「酢の物」「ゆで野菜」「筑前煮」と「ピーマン」「きのこ類」「肉」であった(問7)。

## (2) 保護者と保育士の記述回答結果

### <子どもの食についての意識>

#### 1) 保護者：子どもの食事で気になること(問15)

子どもの食事で気になることでは、「偏食がある」(31)、「遊び食べ」(19)、「食べる量にムラがある」(18)等116名、142の記述があった。食事時間が不規則で落ち着いて食事時間をとれない等の親の側の事情である記述も3項目あった(【表1】参照)。約半数の保護者は食援助に戸惑いを感じ子どもの食事で苦慮している。「偏食がある」(31)の回答の内訳は、「野菜が嫌い・苦手」(12)との回答が最も多く、ついで「保育園では食べているが家では食べない」(4)等である。保護者は子どもの食について栄養バランスを優先的に考えているようである。2歳児はスプーンから箸へと食具の扱い方も上手になり、一人で食べようという気持ちが強くなってくる。ところが偏食や遊び食べ、食事にムラが出てくるなどの否定的な姿も見られる。そういう子どもの発達の姿に親はとまどっている。

#### 2) 保育士：食べ物の好き嫌いで気になること(問1)

食べ物の好き嫌いで気になることでは、「はい」と回答した人39名47の記述の内訳は、大きく「偏食」(39)、「固いものが食べられない」(6)等であり、その「偏食」(39)は、「野菜が苦手」(16)、「食べず嫌い」(16)、「肉が苦手」(2)等であった。(【表2】参照)。食事の姿勢や食具の扱い方で問題と感じている内容として、「箸・スプーンの持ち方」(18)、「茶碗やお皿を持たない・左手を添えない」(7)、「遊び食べ」(5)等24名、31の記述があった。「スプーンを下から握るよう」「箸の持ち方が逆手にならないよう」「茶碗、お皿は左手を添えて持つよう」など具体的な記述がみられた(【表3】参照)。

## 食育に関して保育園と家庭との連携構築をめざす調査研究（1）

【表1】子どもの食事で気になること（保護者）116名142の記述

カテゴリ	原文（一部）
偏食 (31)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家でほとんど野菜を食べない。父親も偏食が多く、嫌いな物は食べないで良いという感じなので子どもも口にする事はありません。</li> <li>・好き嫌が多い。嫌いなものには全く手をつけようとしない。</li> <li>・好きなメニューは自分で箸で上手に食べるが、嫌い（というより好きでないもの）は口に運ば</li> <li>・肉、魚を嫌がる。（肉団子やハンバーグはOK）</li> <li>・保育園では食べるが家では食べない事が多い。</li> </ul>
遊び食べ (19)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食べたい分だけ食べると歩き回ってしまう。</li> <li>・落ち着いてご飯が食べられず、すぐうろうろする。</li> <li>・遊びながら食べる。食事に集中しない事が多い。</li> </ul>
ムラがある (18)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たくさん食べる時と全然食べてくれない時の差が激しいので心配。食べてくれないときは、お腹がすかないか心配になる。</li> <li>・同じメニューでも次の日には一口も食べてくれなかったりする。</li> <li>・いっぱい食べる時と食べない時の差があるのか気になります。</li> </ul>
おかずばかり食べてご飯を食べない (10)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おかずを先に食べてしまってお飯が残り、食べてはくれるが遅くなる。</li> <li>・ご飯の食べる量がおかずと比べて少ない。</li> <li>・主食をあまり食べず、おかずばかり食べる。</li> <li>・ご飯を食べる前におかずでお腹が大きくなってしまい、なかなか食べてくれず、ご飯に味が付いているものはよく食べるのですが。</li> </ul>
小食である (7)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最近になって食欲が落ちている。</li> <li>・食べられる量が少ないのでやせている。</li> </ul>
ご飯ばかり食べておかずを食べない (6)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おかずよりご飯が好きで、ごはんばかり食べておかずをほとんど食べないことがある。</li> <li>・ご飯は大好きですがおかずをあまり食べません。（大人と同じおかずではだめなのかな！？）アトピーなので野菜など色々な栄養を少しでも多くとってもらいたいです。</li> <li>・好きな物があるとそればかり食べる事が多い。</li> <li>・副食を全く食べずにご飯だけを食べて続けることもある。</li> </ul>
食具の使い方 (6)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お箸の使い方を教えると、できないと言って使わなくなります。</li> <li>・箸の使い方が悪い。教えようとするが本人が怒る。</li> </ul>
食べるのが遅い (4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・だらだら食べる事が多い。</li> <li>・ご飯を食べるのが遅いです。かなり時間がかかります。おやつは食べるのがすごく早いです。</li> </ul>
1人で食べない (4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初は自分で食べるけど、だんだん食べさせてしまう。</li> <li>・自分で食べてくれない。</li> </ul>
食べ過ぎ (4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よく食べ過ぎて、大人より食べることもあって、肥満にならないかと・・・。</li> <li>・作ったものはほとんどたべてくれることが多いので、気になることはほとんどありませんが、少々食べすぎではないかと心配になることはあります。</li> </ul>
濃い味つけを好む (4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薄味だと食べません。</li> <li>・味付けを大人と子どもと分けていないので、おかずの汁、おかずをよく食べ、ご飯は少なめな</li> </ul>
おやつをたべすぎ (3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食前におやつを食べると、あまりご飯を食べなくなるので気をつけていますが・・・。</li> <li>・帰宅後、お腹がすいているとぐずるのでおやつを与えるのですが、それでお腹がいっぱいになってしまい、夕飯をきちんと食べない。早い夕食だと家族そろわないので困りますし・・・。</li> </ul>
甘い物を好む (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・甘いものが好き</li> </ul>
固いものをいやがる (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かたい物は途中であきらめる。</li> <li>・かみきれない物や口に残ってしまうものを、のみこまずに口の中に溜めてしまう。最後には出</li> </ul>
食べない (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分からすすんで食事をしようとしなくて、いつもやかましく言って食べるようにしていま</li> <li>・朝は着替えた後でも目が覚めないことで食べれない。ミルクだけ飲んでいる。</li> </ul>
他 (20)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・TVがもうクセになってしまっていて、なかなか消して食べる事ができない。</li> <li>・いつもお茶漬けをする。</li> <li>・手作りのものよりも加工食品を好む。</li> <li>・食事時間が遅い事。</li> <li>・生活時間が不規則なので、しっかりと落ち着いて食事時間とってやる事が少ないことで</li> </ul>

【表2】食べ物の好き嫌いで気になるところ（保育士）39名47の記述

大カテゴリ	小カテゴリ	原文（一部）
偏食 (39)	野菜が苦手 (16)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜など嫌いなものは絶対食べようとしないうちの子がいるので、栄養のバランスが気になる。</li> <li>・野菜が苦手な子が多い。食べず嫌いの子がいる。</li> <li>・全般的に野菜の食べず嫌いが多く、家で食べた事のない食材は、食べる前から嫌！嫌いという子が多い。</li> <li>・みどりの野菜を食べない。嫌いなものを口にすると、はきだしてしまう。</li> <li>・嫌いな物は口にいられてもどうしても呑み込まない。緑黄色野菜を嫌う子が多い。</li> </ul>
	偏食(4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・偏食が多く食べられる食材が少ない。</li> <li>・好き嫌いができていて、嫌いなものが最後まで残っている。</li> <li>・多くの食材を嫌がる子がいる。</li> </ul>
	肉が苦手(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肉の嫌いな子がいるが少しでも食べられるように言葉がけている。</li> </ul>
固いものが苦手 (6)	食べず嫌い (16)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見た目嫌だと思えば食べず、食べず嫌いがある。</li> <li>・一口も食べずに、見た目だけで「いらぬ」という事</li> <li>・苦手な物を全く食べようとしないうち。</li> <li>・食べたことのない物を一口でも食べてみようとするが、食わず嫌いになっていることがよくある。</li> <li>・食べたことのない物や、見た目だけで食べない子がいる。</li> <li>・嫌いなものには手をつけないで、食事のバランスなど偏りが気になる。</li> <li>・嫌いな物が少しでもスプーンや自分の好きな食べ物についていたら、絶対に口にしない。</li> <li>・家で食べたことがない物が多く、食べず嫌いをする子が多い。</li> </ul>
	咀嚼力が弱い (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・咀嚼できなくていつまでも口の中にためている子が多いのが気になる。</li> <li>・そしゃく力が弱く、軟らかいものを好む</li> </ul>
他(2)	固いものが苦手 (4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やわらかい洋風料理は比較的好きだが、かたい物や野菜料理は好んで食べない。</li> <li>・歯応えのあるものを嫌う傾向がある。</li> <li>・固い食べ物が噛めない。</li> <li>・固い物が食べにくい子が多い。</li> </ul>
	ムラ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日によって好き嫌いにムラがある。同じ食材でも調理の仕方により食べないことがある。</li> </ul>

【表3】食具の扱い方で気になるところ（保育士）24名31の記述

カテゴリ	原文（一部）
箸スプーンの持ち方 (18)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・箸の持ち方が握り箸になっていたり、逆手になっていたりする事があるので、その都度声かけをするが、持ち方がくせになっている子もいるのでどうすればうまく伝えられるかが難しい。</li> <li>・箸の持ち方の指導が不十分である。</li> <li>・スプーンや箸を上から握っている時があり、持ち方を伝えた時には正しい持ち方をするが、すぐにもどっている。</li> </ul>
茶碗やお皿を持たない (7)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・茶碗を持たずに机に置いたまま、口を近づけたり、スプーンですくって食べようとする姿が見られる。</li> <li>・茶碗を持たずに机に置いたまま、口を近づけたり、スプーンですくって食べようとする姿が見られる。</li> </ul>
遊ぶ (5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食器で机をたたき、箸を両手で持って遊ぶ。</li> <li>・箸を振り回したり、茶碗を叩いたりなどする。</li> </ul>
家庭との連携 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園で正しい持ち方を一人ずつ指導し（わかりやすく）しているが、家庭でどのようにしているのかを連携できていけるといいのでは、と感じる。</li> </ul>

## (3) 保護者からの要望と保育士側からの保護者に対する連携について

## 1) 保護者：保育園への要望・意見（問16）

保育園への要望・意見では、「栄養・食材が豊富」(10)等肯定的な意見が18件、「食事のマナー、箸の使い方等教えてほしい」(9)、「米飯を多く・量を多くなどの食内容の改善を求めるもの」(8)、「野菜をもっと食べられるようにしてほしい・偏食を改善してほしい」(7)、「保育園での子どもの様子・家庭での状況を聞いてほしい」(6)等の要望が40件あった（【表4】【表5】参照）。



## 食育に関して保育園と家庭との連携構築をめざす調査研究（1）

質問内容は、保護者からの食に関する保育園への要望を聞いたものであったにもかかわらず、およそ3分の1である18件が保育園の給食に対して肯定的評価と感謝を述べていた。中でも集団保育のメリットを認める「家では食べないものも園だと食べてくれる」の表現もみられる一方「家では園のようにメニューや食材豊富にできない」等、核家族化等により料理をする技術や調理のノウハウが身につけていない保護者の姿が推察される。保護者の要望および、保育士の保護者との連携で困っていることの記述内容から、保育園での食内容には満足し、偏食・食べ方など子どもの食事指導（しつけ）を園に委ねてくる保護者が多いことが明らかになった。

## 2) 保育士：食事について保護者との連携で配慮していること、困っていること（問8・9）

食事について保護者との連携で配慮していることでは、「子どもの偏食改善について」（28）、「食事内容の進め方」（15）、「アレルギー・除去食」（7）、「食具の進め方」（6）等51名、63の記述があった（【表6】参照）。食事について保護者との連携で困っていると感じていることでは、「親の意識が少ない・協力が得られない」（20）、「偏食の対策を保育園に依存してくる」（3）等27名の記述があった（【表7】参照）。保護者は保育園での食援助に満足しているが、保育士は子どもの食課題に関して保護者との連携の必要性をより強く感じている。

【表4】保育園への要望・意見（保護者） 肯定的な意見 18名の記述

カテゴリ	原文（一部）
栄養・食材が豊富 (10)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バランスの良い食事なので、満足しています。</li> <li>・いろんな食材を使って食事を作っていたので、これからも今までどおりできるだけ多くの食材を口にする機会を作っていたらば・・・と思います。</li> <li>・家ではなかなかバラエティーにとんだ料理ができないので、毎日の給食を楽しくおいしく食べられるようお願いします。</li> <li>・栄養がたくさんとれているので、今のままこれからもお願いします。季節の食も取り入れているのでいいと思います。</li> </ul>
現状満足 (4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園の給食は喜んでます。時々、今日何を食べたか教えてくれます。</li> <li>・赤、黄、緑のグループなど、自ら選べる子どもにご指導下さりありがとうございます。</li> <li>・給食はほとんど残さず食べていると聞きますので、そのおかげか今まで食べれなかった食材も食べれる様になった</li> </ul>
しつけ（1）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園に入ってから、いわなくても自分から「いただきます」を大きい声で言うようになりました。最近では、「セルビート？」「コロコメダ？」と三ついつてから食べています。</li> </ul>
展示（1）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日は何を食べたかわかるように展示してあるのはいいと思います。</li> </ul>
偏食が改善した (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食はほとんど残さず食べていると聞きますので、そのおかげか今まで食べれなかった食材も食べれる様になりました。</li> <li>・お友達につられて食べているみたいなのでうれしい。園の方がバランスよく食べてくれているみたいなので助かります。特に要望はありません。</li> </ul>

【表5】保育園への要望・意見（保護者）40名の記述

カテゴリ	原文（一部）
食内容の改善 (9)	・米飯をもっと増やしてほしい（3） ・量を多くしてほしい（3）。 ・食べさせてくれるお菓子でもできれば手づくりの物にしてほしい。簡単にサツマイモの天ぷらとかそういうものでよいのでは・・・と思う。 ・和食のおかずを多くしてほしい。
食事のしつけ (8)	・食事のマナー 保育園での食事の際、箸の使い方やヒジをつかない、口を閉じて噛むなど、気になる時は注意して欲しい。
偏食改善してほしい（7）	・野菜をもっと食べられるようにしてほしい。苦手なものを食べられるようにしてほしい
保育園の様子等教えて (5)	・魚は骨があるので、子どもは自分でとることができないので、どういう風に食べているのか気になる。 ・給食で食べられなかったもの、すごく喜んで食べたものを健康ノートで教えて欲しい。 ・きちんと食べているのか気になる。
保育園に依存 (3)	・家ではなかなかバラエティーにとんだ料理ができないので、毎日の給食を楽しくおいしく食べられるようお願いします。 ・家では嫌いな物は食べず、いつも残すことが多いので、給食でなるべく多くの食材を食べてもらいたい。
食の安全 (2)	・乳製品やマーガリン、ショートニング入りのお菓子等、今話題になっている体に悪い食材等はどうなんだろう・・・？と時々思います。 ・清潔、衛生面の管理。
食育推進 (2)	・お米ひとつぶでも大切に思う気持ちを育てていってほしい。 ・食育の大切さを保育園でも推進してほしい。
歯磨き（1）	・食後の歯磨きもしてほしい。
家の様子を聞いて 他（1）	・苦手な食べ物の家での工夫点など聞いてもらえるといいなと思います。 ・魚臭いのをどうにかしてほしい。洗濯しても服のにおいがとれない。
食動作の自立（1）	・自分で食べるよう保育園でも厳しく指導してほしい。

【表6】保護者との連携で配慮していること（保育士）51名63の記述（一部抜粋）

カテゴリ	原文（一部）
子どもの偏食改善 (28)	・連携子どもが苦手なものを食べられた時や、今までより少しでも良くなったところ等、細かい事にまで目を向け健康ノートに書いたりする。 ・毎日の給食の中で「このメニューは喜んで食べていた」など子どもが自発的に食べようとした事を伝える。 ・残さず食べられた時、苦手な物が少しでも食べられた時には保護者に伝え、一緒に喜び合うようにして ・今迄は口にする事ができなかった食べ物が食べられるようになった日には、その事を話し、家庭でもその食材を使ってもらうようにする。 ・好き嫌いをなくすように家庭でも細かくして混ぜたり、言葉掛けを通じて少しずつでも食べられるように話 ・嫌いな物でも少しずつ園で食べていることなど良い面を保護者に伝えるようにしている。 ・園では食べるが家では食べないものがある場合、「小さく切ったから食べました。」というように、どのようにすれば食べたのかを伝える。
食事内容の進め方 (15)	・入園時の調査での食べた事のない食品について定期的に尋ねていくようにしている。 ・家庭での食事の様子を聞いたり、園での食事の様子をつたえたりし、話し合いを大切にしている。 ・食べた事のない食材を事前に聞き、口にしたことのない食材は園でも除去してもらう。 ・健康ノートを通してお家での食事の様子を伝えてもらったり、園での様子を伝えています。 ・給食を食べる量が少なかった時は保護者の方に伝え、その日の園での様子を細かく伝える。 ・家庭での食事の様子を聞いたり、園での食事の様子をつたえたりし、話し合いを大切にしている。
アレルギー・除去食 (7)	・アレルギーについてきちんと聞いておく。 ・除去食の子については、除去した食材を知らせて確認してもらう。 ・アレルギーの子の食べてはいけない食材を確認し、園で食事の様子、家庭での様子を伝え合い、すすめていくようにしている。 ・アレルギーのある場合、その程度、家庭での対応の仕方、医師の診断等について一年を通じて変化のある無しを確認する。
食具の進め方 (6)	・一人ひとりの興味に合わせてスプーンや箸が正しく使えるように連携している。 ・箸の使用については、家庭での様子聞きながら進めている。 ・家庭との話し合いを大切にしている。（スプーン、フォークから箸への移行など） ・スプーン、フォーク、箸の使い方など、家庭での様子聞き、少しずつ知らせるようにしている。
体調に合った食事 (4)	・毎日の体調を確認し、調子がわるい時の家庭での食事内容や量を把握し、その日の園での食事内容を保護者の方でも話し確認しあう。 ・体調などの連絡を密にし、食のすすみ具合を報告し合ったり、体調に合わせて特別食にするなどの話し合いをしている。 ・下痢や体調不良などの時の食事を「園ではどうしたか？」を伝え、家庭での様子も聞いています。
信頼関係 (3)	・親の悩みをしっかり聞いて、園での様子、具体的な介助等を話し、共感し、信頼関係を密にするよう心が ・食事の様子を職員同士で話し合い、気づいた事、状況など伝える様にし、又、保護者の方の話をよく聞く事を心がけている。

## 食育に関して保育園と家庭との連携構築をめざす調査研究（1）

【表7】保護者との連携で困っていると感じていること（保育士）27名の記述

カテゴリ	原文（一部）
子どもの食に関して意識が少ない（14）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私（親）が嫌いだから食卓には出ない、という家や、食べてくれる方がいいからと好きな物だけを食卓に並べる家庭に、食育・食事のバランスの大切さどう伝えていけば、また、どうすれば自然に伝わるかが難しいと思う。</li> <li>・偏食について家でもと協力を求めるが、あまりやる気が感じられない。そのことについて特に困っている様子が見られない。</li> <li>・苦手な物は家庭では残しても何も言わない。</li> <li>・食事の好き嫌いが激しい児について、園での様子を伝えてもお家での様子やどのように食事を進めているかあまり返答がなかったり、それ事体あまり関心を持っていない様子で困ります。</li> <li>・子どもが好き嫌いがあっても、別にそのままでもいいと思っていること。親自身が嫌いな物がは、食事にださないこと。</li> <li>・家庭では好きなものばかりを食べさせ、苦手な食材については食べさせてみようとする姿勢がみられない。</li> <li>・家庭では嫌いな物は食べさせていないことがうかがえる。</li> </ul>
食実能がわからない（6）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝食の大切さを知らせているが、食べてこない子もいる。</li> </ul>
園まかせ（3）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食の大切さを保護者に知らせているが、保育園まかせになっている家庭もある。</li> <li>・園での食事の様子などを話し、関心を持ってもらえるようにしているつもりだが「園でいろいろなものを食べさせてもらっているから・・・」と家庭での食事が片寄ったり、簡単なものになっているように思える。</li> </ul>
家庭での状況がわからない（2）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭での食事の状況がわからない。（朝食はどんなメニューを食べたか）</li> </ul>
外国籍で難しい（2）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国籍の保護者は言葉が通じないことが多く、食事に関しても伝えにくい。</li> </ul>

## IV. 調査結果から見えてきたこと

2歳児の保護者と担当保育士を対象に、この年齢の子どもたちの食生活で気になることや食援助に関する思いを中心に回答を得た。上述の結果から、この年齢の保育園児の食生活をめぐって保育園と家庭での実態に特徴的な事柄がいくつか見えてきた。それを以下にまとめてみる。

## (1) 偏食・好き嫌いについて

保護者の回答からも保育士の回答からも、2歳児の食事で気になることの一つ多くが、「偏食」と「好き嫌い」という問題であった。野菜嫌いや固いものが嫌いという傾向が見られた。このために保護者も保育士も、子どもの食援助に苦勞をしている実態が明らかになった。

## (2) 食具の扱い方について

保護者と保育士に対して同じ質問項目で尋ねていないので一概に比較はできないが、この点に関して保育士の側は非常に気にしている。一方、保護者の側からは、食具の扱い方に対する記述は少なかった。この点は、家庭と保育園での子どもの食事に関する意識の大きなズレがあるとみなしうる。

## (3) 保育園への期待と依存について

子どもの食事や食援助に関して、保護者の側からは大きな期待感が寄せられていることが明らかになった。家庭ではできない食生活の豊かさや食援助を保育園では確かにやってもらっているという感謝と期待感である。このことに対して、保育士の側では、「園まかせになっている」というような依存傾向を危

惧している。

#### (4) 家庭と保育園との連携について

保育士の方では、保育全般に関して家庭との連携を進めるという課題意識を反映してか、当然ながら食育の分野に関しても連携の必要性を強く感じていることが調査結果にも表れた。具体的には、食事の姿をそのつど親に伝達したり、家庭での食事の様子を聞いたり、親の悩みを知ろうとしている。一方、保護者の側は、園の食事指導に満足している、助かっているというような反応である。このため、保育園と家庭との連携のあり方の意識のズレが見られると言える。

## V. まとめにかえて

本稿では2歳児の食生活の実態を園と家庭の両面から分析した。この結果を踏まえて、乳児期後期の健全な食生活の構築の方向性と年齢にふさわしい食援助のあり方について次の4点を提案する。

### (1) 2歳児の発達特徴を踏まえた食援助のあり方について

2歳児の発達特徴は、手指の機能の発達と仲間への関心、そして何よりも自我の芽生えである。したがって、集団生活をしている保育園では友だちと一緒に食べることが楽しくなり、苦手なものでも友だちが食べている姿を見て食べようとする行動が見られるようになる。本調査からも「保護者が保育園では食べるが家では食べない」との声が多かったことはこのことを裏付けている。また、保護者は、「好き嫌いがはっきりしている」「食べることにムラがある」などの回答のように、子どもの自我が芽生えてきたことによる様々な姿に戸惑っていることが明らかになった。そのため子どもの心の発達変化に精通している保育士には、食育に関しても家庭における親子の関わり方の変容のきっかけとなるような具体的な親支援の工夫が求められる。この年齢に特徴的な一見否定的と見える子どもたちの言動は自我の順調な育ちの姿だと理解して、その気持ちに寄り添いながらかわっていく食援助方法を保育士が工夫し、その効果を保護者に発信していくことが大切であると思われる。

### (2) 食事指導観のズレを縮めるための創意工夫について

また本調査では食具の正しい使い方など食事指導（しつけ）に対しての保護者と保育士の意識のズレが見られたことが注目される。この意識のズレはおそらく2歳児という時期が生活面での自立の技術的な面での完成期ということと考えた場合、保護者との食改善意識の「ズレ」を縮めていくことが大事になってくる。そのために可能な方法として保育園での日常的な子どもの食事の姿を具体的に保護者にわかってもらえるような創意工夫をしていくことが必要であろう。例えば、給食参観時に保育士の言葉掛けや子どもへの援助方法を保護者に間近なところでよく見てもらう機会を設けるとか、園便りなどの通信で子どもの変化の様子を具体的に伝達して自立のイメージをわかってもらえる工夫などが考えられよう。

### (3) 乳幼児期から食事文化を育むということについて

2歳児にもなると食事に関して、食具の扱い方の課題だけではなく食事に集中して「食べること」を楽しむことの積み重ねが大事になってくる。本調査結果に見られたように64.5%の家庭が食事中にテレビを「いつも見る」「見ていることが多い」状況では、子どもはおのずと散漫になってしまい食事に集中できないし食材の味を噛みしめることや家族で食卓を囲む団欒の雰囲気や食卓を十分に楽しむことができない

## 食育に関して保育園と家庭との連携構築をめざす調査研究（1）

のではないかと危惧される。偏食や遊び食べ、ムラ食べなどの食についての悩みや食具について悩む前に、家庭での食生活に関して保護者は「乳幼児期の食体験」や「家庭における食事文化」はどうあるべきかについて、もっと敏感になってほしいものである。

## （4）保育園と家庭と連携の方向性について

保育者の専門的力量について、上田によれば幼稚園・保育所の保育者が最も重視しているのは「保護者とも連携」であり難しい力量である<sup>10</sup>と述べ、子育てが「子ども理解」や「保護者理解」といった保育者の専門的力量の向上を助ける<sup>11</sup>と指摘している。筆者達の調査では、保育士としての経験年数、低年齢児の経験年数ともに2～5年の人が多かった。いわゆる若年層と言われる保育士であるにもかかわらず、多くの保育士は子どもの食について大切にしたいこと、育てたい内容を明確に持ち、子どもの発達段階における食実態を把握して食援助にあたっていることがこの調査結果から読みとれる。これは、この14保育園の研修の成果であろうし、少なくともこの5年間は筆者達と食援助のあり方について実践研究を積み重ねてきた成果であろうと考える<sup>12</sup>。その反面、保育園が親支援を強化すればするほど、保護者が保育園に食課題について依存する傾向も否めない実態が生じ、それに対して保育園側としては苦慮している面もあり乳幼児の食を豊かにするための家庭との連携のあり方についてはさらに工夫していく必要がある。そのためには、一人ひとりの子どもの発達状態と家庭生活の実態を親に寄り添いながら把握してどのような家庭支援が必要なかを模索し、保育士も保護者も子どもの食育に関する成功事例からお互いが学びあえるような親密で協力的な関係づくりが大切であろう。

## 註

- 1 「乳児保育の質的向上をめざして（8）－2歳児の食援助の意識調査とビデオ省察－」「乳児保育の質的向上をめざして（9）－2歳児の食援助の実践改善－」佐治よし子、佐田恵子、松生泰子、恵村洋子、梶美保、豊田和子、日本保育学会第60回大会、2007年5月。
- 2 「幼児期からの健全な食生活推進に関する一考察 ～家庭と保育園へのアンケート調査より～」梶美保、豊田和子、東海学校保健学会、2007年9月。
- 3 内閣府、食育基本法、前文、2005年6月。
- 4 同上箇所。
- 5 食育推進会議、食育推進計画、第1の5、2006年3月。
- 6 厚生労働省児童家庭局、保育所における食育に関する指針、かがみ文、2004年3月。
- 7 厚生労働省児童家庭局、楽しく食べる子どもに、第1章総則、2004年3月。
- 8 三重県健康福祉部、三重県食育推進計画、第1、2006年3月。
- 9 同上、11ページ。
- 10 上田淑子「保育者の力量感の研究－幼稚園と保育所の保育者の比較検討から－」『保育学研究』第41巻第2号、pp.30-31、2003。

- 11 上田淑子、澤田忠幸、赤澤淳子「子育てをする保育者の仕事と家庭の関係ーとくに子育てが保育力量に及ぼす影響についてー」『乳幼児教育学研究』第16号、pp21-22、2007。
- 12 この5年間の保育学会での食育実践発表として、「乳児保育の質的向上をめざして（1）ー私たちの乳児保育への取り組みと課題ー」「同（2）ー乳児期の保育内容“食の援助について考えるー”2003。「同（3）ー食援助のプログラム開発ー」「同（4）ー食援助の実践改善ー”2004。「同（5）ー0歳児の食援助ー”2005。「同（6）ー1歳児の食援助の意識調査とビデオ省察ー」「同（7）ー1歳児の食援助の実践改善ー」「質の高い保育士の現任教育ー伊賀市社会事業協会の研修体制の変遷と課題ー”2006。「同（8）ー2歳児の食援助の意識調査とビデオ省察ー」「同（9）ー2歳児の食援助の実践改善ー」「保育園から発信する食育の取り組みー家庭と保育園のアンケート調査よりー”2007。いずれも梶美保、豊田和子と伊賀市社会事業協会管轄14保育園保育士との共同研究である。

### 参考文献

新村洋史 猪瀬里美『人間形成と食育 食教育』芽ばえ社、2002。

内閣府『平成18年度版 食育白書』

幼児食懇話会編『幼児食の基本』日本小児医事出版社、1998。

付記ーこの研究は平成18年度大同生命「地域保健福祉研究助成」を受けて実施した調査研究の一部であり、本稿は日本乳幼児教育学会第18回大会（2008年11月28日、大阪キリスト短期大学）で口頭発表した原稿に加筆修正したものである。なお執筆分担はⅠ、Ⅱ、Ⅴを豊田、Ⅲ、Ⅳが梶である。

（最後に、調査にご協力いただいた保育園、保護者の方々に深謝いたします。）